

平成22年度 第1回埼玉県立図書館協議会会議録

日 時 平成22年7月29日(木) 午後2時～午後5時

会 場 埼玉会館 3C会議室

出席者 (1)出席委員

秋本 敏委員 高野 津代子委員 松山 妙子委員  
佐藤 淑恵委員 大井 むつみ委員 鬼頭 宗範委員  
坂西 友秀委員 田上 智委員

(2)教育局

【生涯学習文化財課】

木村主幹

(3)図書館職員

【県立浦和図書館】

小川館長 東城副館長 陣内教育主幹

千吉良主席司書主幹 荻原司書主幹 坂本担当課長

【県立熊谷図書館】

岸本館長 橋本副館長 渡辺教育主幹 西村司書主幹

【県立久喜図書館】

樋田館長 豊崎副館長 伊藤教育主幹

会議次第

- 1 開 会 [浦和図書館 陣内教育主幹]
- 2 あいさつ 県立浦和図書館 小川館長
- 3 委員欠席連絡
- 4 会長・副会長選出  
委員の互選により、会長に鬼頭委員、副会長に坂西委員を選出した。
- 5 会長・副会長あいさつ
- 6 職員紹介
- 7 平成21年度第3回会議録報告
- 8 会議録署名委員の指名  
会長が、大井委員と田上委員を指名し、了承された。
- 9 会議の公開について議決  
傍聴希望者が1名いることの報告。会長の指示で傍聴者を入室させる。
- 10 議 事

(1)平成21年度事業実施状況及び平成22年度事業について(報告)

[浦和図書館 東城副館長]

平成22年度要覧(資料1)に基づき、平成21年度事業実施状況並びに平成22年度予算及び事業について説明

## 【質疑】

- 委員 / ・重点目標やサービス評価指標はおそらくMBO（目標による管理）でやっている、図書館経営学という概念も入ってきているようだ。とすれば、埼玉県立図書館の他との差別化、という視点はどこなのか気になる。例えば、浦安図書館は特色がある。県立図書館がほかと比べてどこがいいのか。違う点があるならばそれを前面に出し、アピールすべき。重点目標等はもちろんきっちりやっていくべきだが、どちらかという内部管理的要素が強く、外向けではない。
- 会長 / ・他と比較して、違いがでてくるということだろう。「特にこれをやっていきたい」というものが見えてくれば少しずつ差別化されていくのではないかと。3館あることや、市町村支援は特徴的だが、全国に比べて「特段」ではない。
- 委員 / ・自分は市の教育委員会の委員もやっていて、そこで同じような質問をしたがノーアンサーだった。図書館も（このような協議会があるのだから）何かなくてはつまらない。（何も無いの）だったら事務局だけでいいのでは。脱ガラパゴス化（が必要である）。協議会では門外漢が必要だと思うが、難しいのは共通のプロトコルがないということだ。
- 会長 / ・協議会には二つの性格があると思う。館長からの諮問に答申することと図書館サービスや方針に意見を述べることである。協議会のありようとしては、図書館からの諮問だけではなく、フリーな時間の中で、それぞれの委員の意見を述べ、討議することも必要だと考えている。
- 事務局 / ・埼玉の特色として、全国的にみてもトップというのは思いつかない。都道府県立と市町村立とを同列に比較はしにくい。県立は専門書中心に蔵書構成がされる。144万冊あるという蔵書冊数については、ある程度全国の上位に位置している。3館がそれぞれの専門分野を決め、全体で1館を構成しているというのは珍しいが、デメリットもある。施設が老朽化して、そろそろ改築の時期にきている。生涯学習文化財課で3館の図書館を今後どうするか、ということで「ライフチャンスライブラリー化」を検討していて、そのうち構想も出てくる。
- 委員 / ・目標とするような図書館がないというのはおかしい。
- 事務局 / ・目標がないとお答えしているわけではない。「県立図書館を目標とする」ということはない、という意味である。

## （2）図書館サービス評価指標について（報告）〔浦和図書館 荻原司書主幹〕 資料2に基づき、重点目標とサービス評価指標について説明

## 【質疑】

- 委員 / ・重点目標の5つは並列だと思うが、先ほどの話から、何が県立図書館の特徴なのかを考えると、特に4（県内公立図書館等との連携の強化）は重要だと思う。並び順＝重要度ではないが、県立図書館が何をなすべきかを考えると、並べ方として3と4を入れ替えたほうが良いと思った。
- 委員 / ・評価小委員会にも出席しているが、ボリュームの維持及び増大だけではなく、クオリティがどのくらい上がっているのかにも目を向けるべきだ。
- 委員 / ・年間図書受入冊数について、文部科学省が総務省に「政府刊行物を都道府県

立図書館に積極的に無償で」といっているが実態はどうか

事務局 / ・今は把握していない。次回報告する。

会 長 / ・感想だが、これら5つの重点目標は全国の県立図書館に共通の基本的なものだろう。まさにオーソドックスな図書館を目指しているといえるだろう。この中からメリハリをつけるならいくつかの条件がある。資料を増やすならまず予算増加。開架率を上げるなら施設の問題。満足度も資料と施設が低い。ライフチャンスライブラリー化の進展に期待せざるを得ない。それにより埼玉県図書館が目的を持って抜きん出た図書館につながっていくのでは、という感想をもつ。埼玉県立は職員が優秀だと思っはいるが、それでもなかなか県民に広く「このような図書館があつてよかった」と思ってもらえない。図書館の中にいた者でもそう思う。こういう内外厳しい状況の中でめげずに目指すものを見つけてもらいたい。

### (3) 国民読書年記念・図書館を活用する県民のつどいの結果について(報告)

〔熊谷図書館 橋本副館長〕

資料3に基づき、実施に至った経緯及び当日の状況を報告。参加者は70名と少数ながら、アンケートでは概ね好評だった。

#### 【質疑】

委 員 / ・2つ苦言を呈したい。熊谷図書館長からの要請があつて出席したが、協議会委員の出席が少ない。もう少し委員の方にもでてほしい。今、長い説明があつたが、委員が出席していれば省略できる。アンケート結果が出ているのなら是非次回発表して欲しい。

また、講演には4種類ある。「知識を授ける。情報を授ける。感動を与える。人寄せパンダ(有名人を連れてくる)」。一番危惧しているのは、有名人を呼んだ場合に中身がない場合である。今度(「図書館と県民のつどい埼玉2010」)も注意してほしい。今回のつどいでは参加者が少なかった。やはり満席になれば、と思う。(以下、講演者、発表者についての感想が述べられた。)

会 長 / ・この県民のつどいは毎年実施しているのか。共催の埼玉県読書推進運動協議会(読進協)との関係を教えてほしい。

事務局 / ・今回1回のみのものである。今年は国民読書年であり、読進協は読書を推進している団体であるから何かやろう、という動機から開催した。

会 長 / ・私は館長からの要請ではなく、ご案内とらえていた。予算的にはどの程度のものなのか。

事務局 / ・読進協の予算から5万円程度使った。これでチラシやポスターの印刷、会場使用料や講演者への謝金を支払った。

会 長 / ・この予算で70人集められたのは成功かもしれない。貴重な催しだと思つので、何かの機会には是非たくさんの方に参加していただけるようにしてほしい。そのためにもアンケート結果は次回出してほしい。

委 員 / ・全体としては成功だと思つ。

委 員 / ・この機会に読進協について教えてほしい。

事務局 / ・秋の読書週間(11/3をはさんで前後2週間)を推進している全国的団体であ

る。戦後印刷業、出版業者を中心に読書週間を設けようという運動が起こった。その後、年間を通して読書運動を推進していく組織が必要だということで設立され、現在まで続いている。県単位で進めたらどうかという観点から、現在41道府県に支部的な会がある。平成20年度から事務局を浦和館から熊谷館に移した。昨年度はまなびピア2009に参加した。予算としては、全国読進協から各地域読進協に年間わずかだが助成金がでている。

委員ノ・講演者の1人の川島さんに、(講演した内容を)本にまとめるよう図書館から勧めてほしいと思った。

#### (4) 図書館と県民のつどい埼玉2010の準備状況について

[浦和図書館 千吉良主席司書主幹]

資料4に基づき、準備状況を説明。昨年度との相違点として、前回まで基調講演は児童文学の作家が多かったが、もう少し広がりを持つような講師にしたいと思った。また、第1分科会をシンポジウム形式にしたことを説明

#### 【質疑】

委員ノ・講演について、講師の選定にどれだけ図書館が関わっているのか。また、実施後のアンケートは是非見せてもらいたい。

会長ノ・これは埼玉県図書館協会(埼図協)主催である。理事長は浦和図書館長、理事は市町村の図書館、事務局は浦和図書館である。実行委員会はあるのか。

事務局ノ・企画委員会がある。公立図書館の方に委員になっていただき、検討した。講演については事務局で決めたわけではなく、埼図協で決定された。

委員ノ・主催に教育委員会が入っているが、関わり方はどの程度なのか。また、展示の中の推奨図書の内容を教えてほしい。

事務局ノ・「子ども読書活動交流集会」を以前から教育委員会主催で行っており、平成19年度からは「つどい」の中で実施している。また、県立図書館として、子ども読書活動推進に関わっている。推奨図書については、青少年課で行っているが、選定に公立図書館や高校の司書、県立学校や小中学校の教員が関わっている。読書感想文のためではなく、幅広く読んでほしいという意味で協力している。

会長ノ・推奨図書は選定委員が1冊1冊読んで協議して決めていると聞いている。また、決定後、パンフレットで配られるが、それ以上紹介する場がないのが実情である。問い合わせがかなり青少年課にくるが、図書館にダイレクトに来てくればすぐ答えられる。図書を奨める立場の図書館と、県が進めている青少年育成という観点がマッチしていないのを、この「つどい」の中で場を設定することで図書館と推奨図書を結び付けたいという思いもある。

委員ノ・県外の図書館関係の友人に「つどい」について話すと、驚かれ、うらやましがられる。埼玉県として誇れる事業である。しかし、この運営にはボランティアが欠かせない存在なので、もう少しボランティアに配慮してほしいと思う。会場設営から片づけまですべて行ってもらっている。昨年度、講演会の際、主催者と思われる方々が前の席にいたというアンケート結果が出ている。今年はやめてほしいと思う。また、講演会にボランティアの席を用意できないかと思

う。

委員 / ・この行事がボランティアの協力によって成り立っているのはそのとおりである。主催者としてはできるだけ配慮する体制が必要なのかと思う。

会長 / ・この点については事務局にご配慮いただければと思う。

委員 / ・協議会委員はどうやって申し込むのか。申し込み方法と館長から出席要請があるのか。

事務局 / ・広報は準備中だが、チラシを配布し、Web サイトや「彩の国だより」の9月号に載せる予定である。また、8月中に記者発表等を行う。申し込みについては、申込書に基づいて申し込んでもらう。講演については、定員を超えた場合は抽選になる。

事務局 / ・先ほどの（図書館を活用する県民のつどい）もそうだが、協議会委員に対しては、出席要請でなく、御案内である。確実に御出席いただけるなら席を用意する。主催者挨拶等があるので、前の席を事務局で押さえていたが、それを一般の方が見れば「なぜ」ということもある。主催者側、参加者側といった2方向の目を勘案しながら進めてまいりたいと考えている。

#### (5) 「市町村立図書館等との連携協力に係る提言」に関する取組状況について

[熊谷図書館 渡辺教育主幹]

[久喜図書館 伊藤教育主幹]

資料5に基づき、平成20年度の第2回協議会の提言に対する報告を行った。予算削減で協力車・連絡車の便数が減り、時間がかかっていること、図書館未設置自治体への支援、北部地域町立学校への出前講座について説明

#### 【質疑】

委員 / ・県立図書館の協力車が毎週1回来るのは大変助かる。財政当局から厳しく言われていると思うが、市町村への迅速な提供は、絶やしてはいけない。埼玉県の図書館の大きな特徴である。他県の図書館関係者の方と話すと驚かれる。このシステムが長く続くように協議会としても応援したいので、何か必要ならば協力する。また、図書館未設置町村は過疎債対象地域か。

事務局 / ・この4月に法律改正があり、東秩父村が対象である。今度の法律では図書館の建設だけでなく、運営的なことも認められるので、うまく生かしていければと思う。

委員 / ・県北地域の学校への支援はありがたい。秩父地域は県立図書館が頼りなので、今後もよろしくお願いしたい。

会長 / ・ライフチャンスライブラリー化の早期実現を願うところである。図書館がないところは公民館図書室があるが、なぜ「図書館」と名乗らないのか。

事務局 / ・推測でしかないが、予算の問題であろう。

#### (6) その他

委員から事務局へ以下の質問があった。

## 【質疑】

- 委員 / ・東京国際ブックフェアに行き、図書館は書くための講習をやっているのかという疑問が生じた。やったほうが読書推進になるのではないか。また、神戸女学院の図書館を見学し、ハードとしての図書館という観点に今まで目を瞑ってきたのではないかと感じた。ハードという視点はないのか伺いたい。
- 会長 / ・調べ学習など、「調べる」ということは非常によくやっているが、それをまとめて一つの著作にすることまではやっていないのではないか。
- 事務局 / ・数年前から「自分史講座」をやっているところはいくつかある。これは図書館がやっているの、自分史を書く過程で正確な歴史や時代背景等を図書館の資料で調査するという図書館利用の利点もある。
- 会長 / ・ハード面のほうはどうか。
- 委員 / ・建替えはなかなか難しいだろう。上福岡では「誰でも展示できるコーナー」をつくって場所を貸している。展示すると関係者が来館するし、また、図書館に来た方がその展示を見る、といった相乗効果がある。
- 委員 / ・いけばななどはよいと思うが。
- 委員 / ・ボランティアがやってくれるところもある。季節感がでる。
- 事務局 / ・県立図書館では、老朽化が進み、大変厳しい状況である。飲食スペースを設けている館もあるが、業者を入れるとなるとスペース上厳しい。浦和は子ども室入り口のディスプレイをボランティアの協力で行っている。
- 会長 / ・小川町立図書館は小さいが落ち着ける空間にしている。図書館は利用者を「お迎えする」という気持ちを持つことが必要であり、季節ごとの演出などもよいと思う。

今後の予定

〔浦和図書館 陣内教育主幹〕

協議会は年3回を予定。第2回は10月下旬に熊谷で開催する予定。

議事終了

傍聴者退室

11 閉会

〔浦和図書館 陣内教育主幹〕